

第3回国連防災世界会議 Children & Youth Forum 参加者が IRIDeS を訪問しました (2015/3/12)

テーマ：防災教育

場所：東北大学災害科学国際研究所棟

2015年3月12日に Children & Youth Forum の参加者 40 名がスタディツアーで IRIDeS を訪問しました。最初にエントランスに設置してある振動体験装置で、野内類助教(災害情報認知研究分野)の説明を受けて、東日本大震災の揺れを体験しました。地震の揺れを初めて経験する地域の来訪者も多く、かなり良い経験になったようです。

次は 3D 映画「大津波」を約 30 分鑑賞し、災害直後の風景や被災者の語りに会場は感動に包まれていました。その後、保田真理助手(災害リスク研究部門 津波工学研究分野)から、レジリエントな社会を創成するためには、個人個人が減災する意識を育ててこそ、様々なハード対策が効果をもたらし、地域そして社会全体が今後の自然災害と共存できるようになっていくこと、そのために各世代に対応した意識啓発教育が必要になっている現状を説明しました。東北大学災害科学国際研究所では様々な取り組みを始めていますが、その一例として減災「結」プロジェクトの減災意識啓発活動の紹介をしました。参加者からは、反響が大きく、アイデアやコンテンツに特に興味を持ち、南米や中東、アフリカなどでも同じような取り組みをおこないたいので、IRIDeS にアドバイスを求めて行きたいとの声が寄せられた。

その後は 5 階に移動し、佐藤大介准教授(人間・社会対応研究部門 歴史保存研究分野)から古文書の救出や保存の方法などを実際の作業を見ながら説明を受けました。歴史的な資料が多く残されている事や、その再生や保存に最新の機器が使われている事に驚きの声が聞かれました。最後に災害情報認知研究分野から、実際に脳波を測定しながら、人間の認知に関して研究している模様を担当の学生さんに説明を受けました。

参加者からは、IRIDeS の研究が様々な分野からなされ、その知見を融合させて実践の防災・減災に役立っている事が他国では類を見ないと賞賛の声が寄せられました。訪問者全員が大変充実した時間を過ごせた事は、我々、災害科学国際研究所にとっても有意義であり、益々今後の活動を充実させて行かなければならないと感じました。



振動台で地震動を体験する参加者



講義を熱心に聴く参加者

文責：保田真理(災害リスク研究部門)